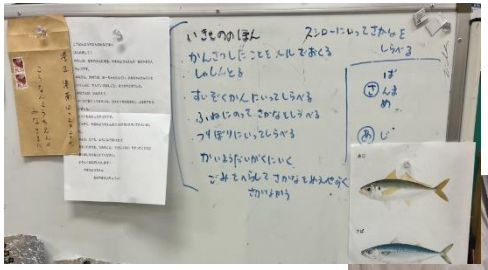
6　港区立港南幼稚園　テーマ：海　1/2

活動事例

地域の海の環境に触れ、表現遊びを楽しむ。

活動スケジュール：令和６年１２月から令和７年３月
テーマ設定理由：海洋生物や運河に触れる環境から、海に関心を持つ幼児の探究活動を促進するため。

環境をデザインする



・生き物や海に見立てられるような様々な素材の布（オーガンジー、リネンなど）
・森の幼稚園から港南幼稚園の５歳児宛に届いた手紙（港南幼稚園の探偵さんちへ　森の幼稚園の周りには海がないので、海について知っていることを教えてくれるとうれしいですといった内容）

探究活動を実践する

森の幼稚園から、「海のことについてもっと教えてほしい」という手紙を受け取り、自分たちが知っていることや、もっと詳しく調べるにはどうしたらよいか、話し合った。「幼稚園に来る途中に、アカエイを見たことがあるよ」「水族館にもたくさんの生き物がいるよね」「東京海洋大学の文化祭で魚を見たよ」などの声が挙がり、実際に東京海洋大学のサイエンスミュージアムに行くことにした。

探偵になったつもりで、展示物をじっくり見て、“新しい発見”を探し、学年のみんなで共有した。「クジラの背骨は〇本あった」「ゴマフアザラシのしっぽの先にはとげがある」「ネコザメは、目がネコみたいな形だからネコザメっていうのかな」などと、気付いたことや不思議に思ったことを友達と伝え合う姿が見られた。

講師と一緒に、遊戯室で海の生き物に関する表現を楽しんだ。ウミガメの一生が分かる紙芝居を見てから実際に体を動かし、自分なりにウミガメを表現する姿が見られた。卵が産まれるためには海の中で「恋をする」と幼児が話したことをきっかけに、その言葉を繰り返し話しながら体を動かしたり、海に見立てた大きな布をくぐって泳いだりして、ストーリー性を持って表現することを楽しんだ。

ウミガメについての理解が深まったことで表現での幅も広がった。小さく歩く様子から、みんなで作った大道具のワカメを食べると成長して大きくなり、泳ぐ様子に変わるなどしていた。様々な海の生き物に興味をもち、なりきっていた。

振り返りを踏まえた気付き

- 表現遊びでは、幼児一人ひとりが感じた思いや言葉を受け止め、表現に取り入れたり、教師が一緒に動いたりすることで表現をする楽しさにつながったのではないか。
- ウミガメの紙芝居を見たり、大きな布を海に見立てたりしたことで、イメージをもって表現遊びを楽しむことができた。幼児がイメージしやすい、視覚的教材や、環境を用意することで、のびのびとなったつもりで表現することを楽しむことができた。
- 森の幼稚園とのやりとりがあったことで、一人ひとりが「海の生き物についてもっと知りたい」「新しい発見を誰かに伝えたい」という意欲をもつことができた。